I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 46
Coleman Hawkins【コールマン・ホーキンス】
～サックスという楽器の存在を世に知らしめた巨人～

Photo : "Night Hawk + Very Saxy" ／ Coleman Hawkins (Essential Jazz Class : EJC-55501)

Profile

1904 年 11 月 21 日、米国ミズーリ州セントジョセフ生まれ（1901 年生まれという説もある）。本名は Coleman Randolph Hawkins。シカゴのハイスクールに通い、その後、カンザス州トピカの学校に転向。ハイスクール在学中にトピカのウォッシュバーン大学で 2 年間ハーモニーと作曲を学ぶ。最初はピアノとチェロを学び、9 歳の頃にサックスを始める。14 歳の頃にカンザスで演奏し始める。22 年にニューヨークに進出し、当初はブルースの分野で活動。23 年フレッチャー・ヘンダーソン楽団に加入。翌 24 年この楽団にルイ・アームストロングが加入。ルイのスタイルに影響を受け、男っぽい荒々しさと洒落っ気を兼ね備えた演奏スタイルを確立。その後、フレッチャー・ヘンダーソン楽団の看板奏者に成長。34 年からはヨーロッパに渡り、ジャンゴ・ラインハルトやステファン・グラッペリ等と共演。39 年に帰国し、バンド・リーダーとして活躍。同年後にスタンダード・ナンバーとなる「ボディ・アンド・ソウル」を吹き込む。1940 年代にビ・バップが流行するとホーキンスも注目し、セロニアス・モンクやマックス・ローチ等の若手を育てる。50 年代も精力的にライヴやレコーディング活動を続け、60 年前後にはトミー・フラナガン等と結成したレギュラー・カルテットで活動。62 年にはデューク・エリントン、63 年にはソニー・ロリンズとも共演。1960 年代後半より体調を崩し、活動が停滞した。“ テナー・サックスの父 ” と称され、“ ホーク ” や “ ビーン ” というニックネームでも親しまれ、スウィング・ジャズの時代からビ・バップの時代を通じて活躍。サックス奏者に限らず、多くのミュージシャンに影響を与えた。1969 年 5 月 19 日、肺炎によりニューヨークで死去。享年 64 歳。

CH's Great Albums

スウィング・ジャズの時代から数々の名演、名作を残しているホーキンス。若かりし頃のプレイは勿論、円熟した晩年のプレイも味わい深いので幅広く聴いてみて欲しい。

伝説＆革新的なホーキンスの名演「ボディ・アンド・ソウル」収録

ボディ・アンド・ソウル
コールマン・ホーキンス
（RCA）[Import CD]

コールマン・ホーキンス (ts)、他

1. ミート・ドクター・フー 2. ファイン・ディナー 3. シーズ・ファニー・ザット・ウェイ 4. ボディ・アンド・ソウル（他、全 19 曲）

「2大テナーの祖」の絶頂期の名演全16曲を収録したアルバム

コールマン・ホーキンスとレスター・ヤング
コールマン・ホーキンス＆レスター・ヤング
（ソニー・ミュージック：BVCJ-37568）

コールマン・ホーキンス、レスター・ヤング (ts)、ビル・コールマン (tp)、オスカー・ペティフォー (b)、シェリー・マン (ds)、他

1. ヴートゥ 2. ハウ・ディープ・イズ・ジ・オーシャン 3. ホーキンズ・バレル・ハウス 4. スタンピー 5. クレイジー・リズム（他、全 16 曲）

タイトル曲の熱演は圧巻！ホーキンスの晩年の代表アルバム

ジェリコの戦い +2
コールマン・ホーキンス
（ユニバーサルミュージック：UCCU-5599）

コールマン・ホーキンス (ts)、トミー・フラナガン (p)、メイジャー・ホリー (b)、エディ・ロック (ds)

1. オール・ザ・シングズ・ユー・アー 2. ジェリコの戦い 3. マック・ザ・ナイフ 4. 町の噂 5. ビーン・アンド・ザ・ボーイズ（他、全 6 曲）

ジャズ・サックスの歴史を変えたと言ってもけして過言ではないホーキンスが、欧州から帰国後の 1939 年に吹き込んだ「ボディ・アンド・ソウル」が収録された作品。今でこそそれ程インパクトはないプレイに聴こえてしまうかもしれないが、当時としてはアドリブが効いた革新的な演奏で大ヒットを記録。その後ジャズ・シーンに登場するテナーマンたちのお手本となった伝説の名演。その他、1939~56 年に録音された 19 曲を収録。

豪快で男前なブロウのコールマン・ホーキンスと繊細で美しいブロウのレスター・ヤングは、長いジャズの歴史の中で何かと比較されて来たが、この 2 人の存在はジャズ史、特にサックスの歴史では欠かすことが出来ない。2 人の絶頂期の 1943 年のプレイをそれぞれコールマン・ホーキンス 10 曲、レスター・ヤング 6 曲収録した演奏集。2 人の共演作ではないが、このアルバムを聴かずしてテナー・サックスは語れない。

黒人霊歌であるタイトル曲は 10 分以上に及ぶ熱演。貫禄と言うべきホーキンスを象徴する激しいブロウが圧巻。また、この曲で披露されたメジャー・ホリーのハミング・ベース・ソロも大きな話題を呼んだ。1962 年に NY のヴィレッジ・ゲイトにてライヴ録音された名盤。アップテンポの「オール・ザ・シングズ・ユー・アー」も秀逸。豪快なテナーが楽しめるホーキンスの晩年の代表作。トミー・フラナガンのピアノも素晴らしい。

ホーク 対 レスター

1923 年にフレッチャー・ヘンダーソン楽団に加入し、その後、フレッチャー・ヘンダーソン楽団の看板プレイヤーに成長したコールマン・ホーキンス。そのホークが 1934 年にヨーロッパに渡り、後任としてフレッチャー・ヘンダーソン楽団に加入したレスター・ヤング。ホークに比べ繊細である種女々しい奏法は全く理解されず、楽団内でも孤立してしまい、結局自ら楽団を去ったレスター。そのレスターが漸く認められたのが、その後のカウント・ベイシー楽団での活躍で、その人気振りをヨーロッパから帰国したホークが目の当たりにしたのだった。

人気 TV ドラマ『ルート 66』出演

1960 年から 1964 年まで放送されたアメリカの人気 TV ドラマで、ロサンゼルスとシカゴを結ぶルート 66 をバズ＆トッドという 2 人の若者がコルベット・スティングレーに乗って旅するロード・ムービー『ルート 66』。嘗て日本でも放映され大ヒットを記録したドラマだが、そのシーズン 2 の第 3 話「グッドナイト・スウィート・ブルース」には、ジョー・ジョーンズ（ds）、ロイ・エルドリッジ（tp）等と共にコールマン・ホーキンスがゲスト出演を果たしている。因みに、この第 3 話の監督は『ザ・サウンド・オブ・ジャズ』を手掛けたジャック・スマイトだった。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.19

~ Cleopatra's Dream【クレオパトラの夢】~

この曲は“モダン・ジャズ・ピアノの祖“と称されたバド・パウエルが作曲し、1958 年録音のアルバム『シーン・チェンジス』の 1 曲目に収録された楽曲。以降、多くのアーティストにカヴァーされ、日本ではテレビ CM やテレビ番組等で幾度となく使用され、愛され続けている。1987 から 1991 年まで TBS 系列で放送されていた村上龍のトーク番組『Ryu's Bar 気ままにいい夜』のテーマ曲もこの曲だった。バドの代表曲でありジャズの名曲。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

バド・パウエル『ザ・シーン・チェンジズ』
秋吉敏子『リメンバリング・バド～クレオパトラの夢』
ハンク・ジョーンズ・グレイト・ジャズ・トリオ『ラスト・レコーディング』
ダン・ニマー・トリオ『モダーン・デイ・ブルース』
Bohemianvoodoo『アロマティック』